

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】令和 2 年 4 月 2 日 (2020.4.2)

【公開番号】特開 2019-113402 (P2019-113402A)
 【公開日】令和 1 年 7 月 11 日 (2019.7.11)
 【年通号数】公開・登録公報 2019-027
 【出願番号】特願 2017-246646 (P2017-246646)
 【国際特許分類】

G 0 1 T 7/00 (2006.01)

A 6 1 B 6/00 (2006.01)

G 0 3 B 42/02 (2006.01)

G 0 1 T 1/20 (2006.01)

【F I】

G 0 1 T 7/00 A

A 6 1 B 6/00 3 0 0 S

A 6 1 B 6/00 3 0 0 W

G 0 3 B 42/02 B

G 0 1 T 1/20 L

【手続補正書】
 【提出日】令和 2 年 2 月 5 日 (2020.2.5)

【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 6
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 6】

【特許文献 1】特開 2 0 0 4－3 2 1 5 6 8 号公報

【特許文献 2】特開 2 0 0 9－0 2 0 0 9 9 号公報

【特許文献 3】特開 2 0 1 1－0 6 9 7 4 0 号公報

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 4
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 4】

支持部材 3 と底 1 1 との間には、回路基板 1 8 が配置されている。回路基板 1 8 には、検出基板 1 3 の駆動を制御する駆動制御回路、検出基板 1 3 から出力される電気信号を処理する信号処理回路、外部との通信を行うための通信回路、電源回路等が形成されている。なお、回路基板 1 8 は、図 2 では単一の要素として模式的に示されているが、複数に分割され、支持部材 3 と底 1 1 との間に分散して配置されてもよい。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 5
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 5】

また、支持部材 3 と底 1 1 との間には、検出基板 1 3 及び回路基板 1 8 に電力を供給する電力供給部 1 9 も配置されている。電力供給部 1 9 は、例えばリチウムイオン二次電池

等の充電可能な電池であり、又は電気二重層キャパシタ、リチウムイオンキャパシタ等のキャパシタである。なお、電力供給部 1 9 は、図 2 では単一の要素として模式的に示されているが、複数に分割され、支持部材 3 と底 1 1 との間に分散して配置されてもよい。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 7】

支持部材 3 は、一つ以上の凹部を有し、凹部は、放射線検出パネル 2 を支持する第 1 面 1 5 に設けられている。図 2 に示す例では、凹部は、支持部材 3 によって周囲を閉じられた、底を有する穴 3 0 であり、第 1 面 1 5 に複数設けられている。放射線検出パネル 2 は、穴 3 0 の第 1 面 1 5 における開口を除いた第 1 面 1 5 の残余の領域に、両面粘着テープ、接着剤等の接合材を介して接合されている。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 3】

一方、図 5 に示す例は、複数の穴 3 0 が、第 1 方向 X に等しい間隔をあけて並び、穴 3 0 が第 1 方向 X に並んでなる凹部列 3 4 が第 2 方向 Y に間隔をあけて並んでいる。そして、隣り合う二つの凹部例 3 4 を第 1 列 3 4 a 及び第 2 列 3 4 b として、第 1 列 3 4 a に含まれる複数の穴 3 0 は、第 2 列 3 4 b に含まれる複数の穴 3 0 に対し、第 1 方向 X にずれて配置されており、換言すればジグザグ状に配置されている。